

それいゆ

| 特集 | 男女平等推進セミナーⅡ 若宮 正子氏 講演
一生涯を楽しむために
～勇気をもって挑戦すること～



| 内容 |

- 男女平等推進セミナーⅠ
～“知らなかった”じゃもったいない「しごと探しのステップ」～
- いなぎのひと
夏目 志保さん（ステーションホテル ちゃぼ 支配人）
- 男女平等推進センターのご利用案内

稲 城 市

vol.35

一生涯を楽しむために ～勇気をもって挑戦すること～



実施日：令和5年10月7日(土)

場所：地域振興プラザ

講師：^{わかみや}若宮 ^{まさこ}正子さん (IT エバンジェリスト)

58歳でパソコンを独学で習得し、81歳でゲームアプリ「hinadan」を開発し、世界最高齢のプログラマーとして活躍中の若宮正子氏より人生100年時代において様々なことに挑戦しつづける秘訣を学びました。

○プロフィール

1935年東京都生まれ。東京教育大学附属高等学校（現・筑波大学附属高等学校）卒業後、三菱銀行（現・三菱UFJ銀行）で勤務。58歳から独学でパソコンを習得し、シニア世代のサイト「メロウ倶楽部」の創設に参加。

また、81歳となる2016年秋からiPhoneアプリの開発を始め、2017年2月にゲームアプリ「hinadan」を公開した。同年6月に米国アップル社から世界開発者会議「WWDC2017」においてティム・クックCEOより最高齢プログラマーとして紹介され注目される。2018年と2020年に国連関連イベントで講演、2021年には台湾政府デジタル担当の政務委員であるオードリー・タン氏とトークショーを行った。

○現在の活動について

岸田首相主催・デジタル田園都市国家構想実現会議構成員、NPO ブロードバンドスクール協会理事、メロウ倶楽部副会長を務めております。

また、著書として「昨日までと違う自分になる (KADOKAWA)」、「88歳、しあわせデジタル生活 もっと仲良くなるヒント、教えます (中央公論新社)」他。

○幼少期から学生時代について

物心ついた頃から、戦争に向かって走りに走っていた時代でした。

小学1年生までは授業を行っていましたが、小学3年生になる頃には戦争が激化し、東京も甚大な爆撃被害を受けていたため、学童疎開で長野県の山奥に行きました。

そこは小さな村で、260人ほどの村民に対して200人ほどの子どもたちがやってきたのですから大変だったと思います。

ロジスティクスを重んじない時代でしたので、役所も疎開先での食糧のことまでは考えず、現地調達せざるをえない状況でした。

最初は、お米のご飯でしたが、次第に大根混じりになり、それがお粥になり薄くなっていく、毎日がひもじさとの闘いでした。

厳しい時代でしたが、本当に死なないで良かったと思いました。

1945年8月15日、日本は敗戦を迎えます。ラジオで玉音放送を聴きましたが、それが今まで大事とされていたことが悪いことになり、反対に悪いこととされていたことが大事なことになるというパラダイムシフトの始まりでした。戦後の食料難において皆がたくましく生きてきたと思います。

中学2年生になると、東京でもまともな授業ができるようになりました。戦争の影響もあり生徒の学力差が激しく、学年に関わらず能力別学級でしたが、1年経つと追いつくもので卒業する頃には皆が同じ学力になっておりました。

高校卒業後、大学に行かずに就職するのですが、当時の多くが高卒で、男性でも大学に通う人も少なかったです。仕事が終わってから大学の夜間学部に通う人もいましたが、大変なことだったと思います。



○銀行員時代について

当時、女性は職場において個別管理の対象になっておらず、男女平等それ以前の問題であったと思います。

役所や大企業では男女差別がありましたが、銀行はそうでもなかったです。初任給も同額でしたが、女性が責任をもって窓口業務を行っておりました。

当時、女性が大学で学問を学ぶのは生意気だと思われており、結婚したら退職するのが当たり前と言われる時代でした。

男性側からしても、結婚後も奥さんが働いていると「妻を養えない」というレッテルを貼られるので無理してでも退職する女性がいました。

銀行に就職した当時は、札勘定やそろばんが必須で、手先が器用で、素早く、正確に仕事をこなすことが求められておりました。

右手が不自由なところもあり、仕事には影響が出ました。仕事が遅くて先輩行員から「まだ終わらないの？」と注意されたので、「自分は会社のお荷物なのでは？」と悩みました。

その後、企画開発部門に異動するのですが、仕事が面白くなる契機になりました。

企画開発部門は高卒が行くようなポストではなかったのですが、業務改善制度や業務提案制度といったものがあり、行内の投書箱によく投書していたので、それが報われたのかもしれない。

その部署では、上司の理解があり、やりたいことができました。その頃には、マーケティングという言葉が出てくるのですが、インスタントラーメンを作るような会社が出てくる等、このような時代の変わり目に立ち会えたことは素晴らしかったです。

やがて銀行にもコンピューターが導入されるのですが、応接室を占領するほどの大きさで、そろばん1級の同僚男性が「機械はすごい。これから技術が進歩する」と顔色を変えたのを思い出します。

企画開発部門は、とても充実し、恵まれた職場でした。新商品開発チームに配属され多くの商品開発に関わりました。男女雇用機会均等法が導入される最初の頃だったと思いますが、女性の管理職を置くという話になり、当時珍しかった女性管理職になることができました。

ここで思ったのは、自分自身のもっている能力が評価されるかどうかは、その社会、環境、勤め先等によって変わってくるということでした。

○パソコンとの出会い

業務の機械化により自分の欠点を解消することができました。

機械やコンピューターは銀行員生活での恩人でしたので、仲良くしないといけないと思いました。

定年間近になり、パソコンが世の中で出てきた時に早い段階で購入しました。

この変なおモチャが私の後半の人生を大きく変えるとは夢にも思いませんでした。

当時、パソコンはとても高価な物で、購入する人は物好きな方でした。入門書もなければ教室もなかったので、人に聞かずに何でも自由に楽しんでいました。

私のプロフィールに「独学でパソコンを習得した」とありますが、正確には「一人遊びで何とか習得した」のだと思います。

SNSが普及している現代とは異なり、私がパソコンを購入した当時は、電話回線を使用して文字がやっと送れる状況でしたが、北海道から沖縄まで離れた場所に暮らす人たちと情報交換できる機械に夢中になりました。

やがて定年退職を迎えますが、退職に対してネガティブにもマイナスにも考えませんでした。銀行員時代は自分の時間をもつのが難しかったので、退職後は自分の時間ができるなと思っておりました。

○母の介護と退職後の生活について

退職後はアルバイトをやっておりました。三兄弟の末っ子であったこともあり、親の介護は回ってこないだろうと思っておりましたが、兄に頼まれて母の介護をすることになりました。母が100歳で亡くなるまで10年付き合いました。

以前、母の介護に尽力したと書かれたことがありましたが、趣味に没頭するあまり、母のおやつを忘れる等の不良介護人ぶりを発揮したこともありました。

介護する側もされる側も肩を張る必要がないと思っていたのです。

介護する側が、行きたいところも行けず我慢をする。そうすると介護される側にもその気持ちが伝わるのです。

介護の傍ら、私にはインターネットで交流する仲間がいました。

高齢者向けの交流サイトである「メロウ倶楽部」の設立発起人として関わり、チャットをしたり、介護のノウハウをインターネットから仕入れたりしました。

その頃に、高齢者にもITリテラシーがあった方が良くと思い始めました。

ITエバンジェリストという肩書きを勝手に作り、講演会等の普及活動を始めました。

やがてインターネットの普及により、海外との交流ができるということで英語を習い始めました。

月1回塾に通い、英検準一級を取得し、自分の活躍する舞台が広がりました。

2014年には「TEDxTokyo」に登壇し、「私はインターネットから翼をもらった。」「インターネットがおばあちゃんを枕もとから広い世界に連れて行ってくれた。」という内容の話をしました。

当初、若者の男の子ばかりの出演者の中におばあちゃんが出てくる状況の中で、観衆がどんな顔をするのか心配する人もいたと思いますが、スピーチ後は、観衆が沸き、スタンディングオベーションとなりました。



○ゲームアプリ「hinadan」開発について

高齢者にとって、スマートフォンは肌が乾燥して反応しなかったり、液晶画面に指を滑らせて使用することが難しかったりします。また、高齢者が楽しめるアプリがありませんでした。

機械そのものの改良は出来ないけれども、アプリは誰でも作れるのではないかと考えました。友人からは「若宮さん自分で作ってみれば？」と言われ、「八宝菜や五目寿司を作るのとは訳が違うのだから」と思いましたが、友人たちの「教えるよ」や「手伝うよ」の声に押されてiPhone用のアプリを作りました。

宮城県に住む友人がSkypeを使用して、オンライン授業で教えてくれました。

ひな人形をひな壇の正しい場所に置くというゲームアプリ「hinadan」を開発し、公開すると、それが日本の新聞に掲載され、アメリカのニュースチャンネルCNNで大きく報道され海外で拡散されました。

その後、米国アップル社CEOのティム・クック氏から招待されて、アメリカに行くことになりましたが、ティム氏からメールが来た時に、周りの人たちは誰も信じておりませんでした。

そこでメールに記載された電話番号にかけてみると、「お待ち申し上げておりました。」という第一声とともに具体的なスケジュールの話になり、アップル社開催の世界開発者会議(WWDC)に招待されました。

今になって、なぜティム氏が私を招待しなかったのか分かる気がします。海外でもITといえば若者であり、お婆ちゃんがアプリを開発するというのは衝撃的だったのでしょうか。高齢者をユーザーのターゲットとし、マーケットの可能性を探っていたのかもしれない。

○みなさんへのメッセージ

男女共同参画社会とは、差別をなくして皆を抱擁してくれる社会のことだと考えます。輝く個人になるために皆が一生勉強していかなければならない時代がやってきます。

「フォルダ型」人間ではなく「ハッシュタグ型」人間を目指し、自分に色々なラベルを貼っていきましょう。これからの人生100年時代において、大人も大人の部活をやって色々なことに興味をもってほしいです。

新しく身に着けた知識に、今までの体験を資産として持ってきて、それを発酵させ、熟成させれば、それが英知や知恵になってくるでしょう。それが人工知能と共存する術となると考えます。

私自身もまだまだ未熟で、80代になり、自分がいかに分かっていないか知恵を頑張って身につけておきます。現在では、本を執筆したり、講演会を行ったりしておりますが、残りの人生で出来るだけ学んで青春をしていきたいと思えます。



男女平等推進セミナーⅠ

主催 東京しごとセンター多摩 女性しごと応援テラス多摩
女性しごと応援キャラバン

「しごと探しのステップ」

実施日：令和5年8月21日（月） **場所**：稲城市立iプラザ

講師：滝澤 理砂さん（国家資格キャリアコンサルタント）

“知らなかった” じゃもったいない就職活動の基本的なステップや働き方、制度、求人の探し方などを学べます。今回はセミナーの内容を少しご紹介します。

セミナーの概要

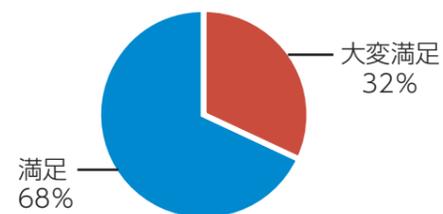
就職活動には基本的なステップ（流れ）があります。いまの状況を整理し、ご自身はどうしたいかを考え、必要な情報や入手できる場所を知り、働くことを具体的にイメージしてみましょう。

1. しごと探しのステップ
2. はたらくことを考える
3. 変化する社会
4. 社会保障について
5. しごとの探し方
6. はたらくことをイメージしてみよう

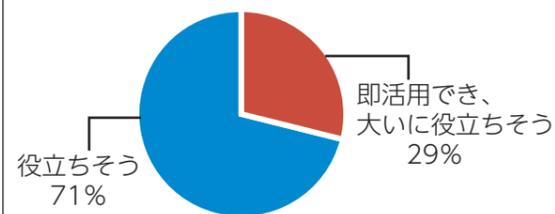
⇒個人ワークとペアワークを行うことで、より自分の“今”や考え方を知ることができます。自分をよく知ることで、就活に際して何が優先で何が必要かなどを整理するきっかけが掴めます。

セミナーアンケート結果

セミナーの内容に満足できましたか？



今後の就職活動に活用できそうですか？



セミナーの感想（抜粋）

- ・ 仕事探しをする上で少しイメージが出来た。
- ・ 具体的な動き方を知ることができた。
- ・ 自分を見つめ直す時間になりました。
- ・ おとなりの方とのコミュニケーションは参考になりました。
- ・ 自分の棚下しが活動を始めるキッカケになりそう。
- ・ 働き方を絞っていく上でのポイントをつかむことができました。いただいた資料（さすてなブック）もとても役立ちそうです。
- ・ 他のセミナーに比べ、女性の視点から内容が話されていて、とても良かった。

就職に関するご相談は…

東京しごとセンター多摩 女性しごと応援テラス多摩 TEL 042-529-9001
<https://www.tokyoshigoto.jp/tama/kyuusyoku/jyosei/>

利用時間 月～金：9時～20時 土9時～17時 ※日、祝、年末年始を除く

所在地 〒190-0023 東京都立川市柴崎町3-9-2 立川駅南口東京都・立川市合同施設3階



「いなぎの人」では稲城市で活躍している方をご紹介します。取材をさせていただいた夏目 志保さんは、市内の「ステーションホテルちゃぼ」の支配人としてご活躍される一方で、きらきらフェスタ実行委員会委員として、矢野口駅周辺のにぎわいや魅力を高め、市民の皆さまや来訪者に愛されるまちづくりを目指すため、矢野口駅前広場でイルミネーションを実施する活動を行っております。

お仕事と両立させながら、様々な活動も行われている夏目さんに今回はお話を伺います。



1 ホテル業で働くことになったきっかけを教えてください。

百貨店勤務のあとブライダルの仕事に就き、婚礼などの現場で働いている頃からホテルとの行き来があり憧れていました。子育てが落ち着いてきた頃に声をかけてもらったのが始まりです。実際に業務について驚いたのが裏方の仕事量の多いこと。覚えるのに必死でしたね。

3.11の震災時、私は神奈川県内のホテルで働いておりましたが、何百人もの帰宅困難者で溢れ、最上階まで階段で毛布を運んだり、とにかく朝まで走り回っていたのを思い出します。そんな時に「ありがとう」と声をかけて下さったのはお客様で、サービス業をしている自分たちが使う「ありがとう」の言葉をお客様から頂けた事にとっても感動しました。本当にあの時は嬉しかったです。ホテル業でずっと働いていこうと感じた瞬間だったかもしれません。

ご縁があり、ここ稲城市の「ステーションホテルちゃぼ」に来て10年になりますが、あの頃の気持ちのままでいられるのは、私はこの仕事が好きだからなのでしょうね。



2 お仕事の中で、お客様に対してどのような思いで対応されていますか。また、女性のお客様に対して特に配慮されていることがございましたらお聞かせください。

ご利用頂く全てのお客様への思いは同じで、まずは安心して快適にお過ごしいただきたいです。

アットホームな雰囲気できつろげるホテル。お客様とは「ただいま」、「おかえりなさい」と自然に言葉の出る関係でありたい、と常に思っております。

環境に優しいアメニティや急なご宿泊にも対応できるようヘアケアなどの備品も用意したり出来る限り女性専用フロアを設け、これは差別とかではなくお客様同士気を遣わないという環境作りを心掛けています。

他にもお子様連れのお客様や一日歩いて疲れた靴を脱いでリラックスしてお過ごし頂けるよう全室フローリング仕様にいたしました。（自分が宿泊する側だったら…）と考えていつも部屋を眺めます。

お仕事のお客様には、その日の疲れを癒していただき翌日も元気にご出発していただく。

また、観光のお客様にはお土産と一緒に楽しい思い出もお持ち帰りいただく。そんなホテルでありたいと思っています。

3 ホテル業を志望する方に向けてメッセージをお願いします。

ホテル業界はいろいろな職種のひとが活躍できる場所です。フロントクラーク・コンシェルジュ・ベルスタッフ・ドアスタッフ・バトラー・ハウスキーパー・リネンスタッフ・施設管理・総支配人・副支配人・営業職や事務職などなど。

憧れから入った私ですが30年近くもこの仕事をしてきて思うのは、ホテルの仕事ってちょっと大変な事もありますが、それよりも何よりもドラマティックなのです。その日ゲストを迎えるワクワク感。これを知るとホテルの仕事が本当に大好きになります。

毎年中学校の「職業体験」として3日間生徒さんをお預かりしてお仕事のお手伝いをしてもらっていますが、少しでもホテルの仕事に興味を持ってもらえると嬉しいです。「あの制服を着たい！」それだけでも動機は十分なので是非チャレンジしてほしいですね。



4 稲城市に対しての思いやお気に入りスポット等がございますか？

東京都調布市に本社（協栄プリント技研株式会社）があり、このホテルの設立者である先代の稲城市への想いを受け継がせて頂いております。

現在私は稲城市観光協会の理事をさせて頂き、稲城市の観光について私自身も勉強をさせて頂いております。観光資源のたくさんあるこの稲城市に沢山の人が行き交う日が近い未来にあるのだらうと思うと、地元の物から生まれる特産品や飲食店や穴場な観光スポットをもっと市外・県外の人たちにも知ってほしいですね。

お気に入りのスポットは、稲城には梨園や桜街道や里山も多摩川も良いところが沢山あります。そんな中でもスタッフしか上れないホテルの屋上から眺める星空と夕陽に染まる富士山よみうりランドへ行く為のゴンドラから見える夕焼けの景色は私のパワースポットです。



5 ワークライフバランスを取るにあたり、心掛けていることはありますか？

ホテル業は夜勤もありますし、思うように休憩が取れなかったり深夜の作業も必要になったりハードな仕事と言われて来ましたが、コロナ禍に非接触対応や無人化がどんどん進められていく中、ホテルやサービス業での働き方が本当に大きく変わりました。それをきっかけに私たちの職場でも、業務の見直し・仕事の見える化で残業をしない環境作り・週休2日の確保などを実現することで「仕事」と「個人の生活」のメリハリが持てるようになったのではないかと思います。心とからだの健康は良い接客にもつながりますし、仕事をしながら家族との時間・趣味や勉強する時間を作っていけるような職場の環境をスタッフの声を聞きながら作っていきたいと思います。

6 お仕事以外でのプライベートはどのようにお過ごしですか？

海好きで、以前は釣りに行くのが日課でした。釣った魚をさばいて食べるところまでしないと気が済まない私でしたが、最近ではめっきり大人しくなり娘や孫を誘って海沿いのカフェで朝食を食べたり、貝がらや流木を拾ってオリジナル雑貨を作成してみたり、とにかく日常を忘れ平和に遊んでいます。旅行先では体験ツアーを必ず1つは入れて自作のものを旅の思い出としてお土産にするのが楽しみで先日も琉球ガラスを作りたい一心で飛行機に乗ってきました。

旅先でも一通り遊んだら気になるのは宿泊している施設のあれこれ、100%は切り離せないのは職業病なので仕方ありませんが、これも旅の楽しみの1つにしています。



7 きらきらフェスタ実行委員として活動してみたいか？

こちらに勤めた頃、知り合いもなく少し孤立している思いを抱えていた時にお声をかけて頂き「地域に溶け込みたい」という思いで2016年よりお手伝いさせて頂いております。

このような活動は初めてでしたので、最初は右も左もわからずウロウロするばかりでした。毎年、ポスターを作成してくれる子供たち、吹奏楽やダンス、和太鼓に矢野口音頭などこの日の為に練習を重ねてきて一生懸命に披露する姿は微笑ましいです。

近隣企業様のお力添えもあり実行委員会や稲城市市民協働課の方々の「皆で作って

る矢野口駅前きらきらフェスタ」が毎年楽しみになり矢野口の駅前がイルミネーションで明るく点灯されるとその周りには沢山の笑顔が溢れてます。それを裏方から見ていると私も一員になれたかな？と自己満足。

若い人達ももともと地域のこういった活動に参加をして、これから一緒に盛り上げていきたいですね。



8 今後の目標などを教えてください。

昨年、人生の節目を迎えました。「まだまだ働けるよ」と機会を下さった事に感謝をしながらまだまだできる事を探している最中です。

この「ステーションホテルちゃぼ」をもっともっと多くの人に知ってもらいたい。

その理由は平成31年に稲城市と「災害時における協力体制に関する協定」を締結いたしました。

国民保護法に基づく避難施設としても手続きをすすめておりますが、宿泊だけでなく地域の避難場所などとしても活用してほしいこと、年に3回行うバレンタインマルシェやハワイフェス・クリスマスマーケットのイベントを通して地域の方々の作品や商品を並べて活躍の場としてホテルを使って欲しいと思っていますし、週末にホテル前にキッチンカーさんがいてくれる時のようにいつも人が集まる場所にしてゆきたいです。



市民の皆様といっしょに男女共同参画社会づくりをすすめていくための拠点施設です。性別年齢を問わずどなたでもご利用いただけます。

開館時間：午前9時～午後10時

休館日：第2火曜日、年末年始

電話番号：042-378-2112

所在地：稲城市東長沼2112-1



京王相模原線「稲城」駅から徒歩7分
JR南武線「稲城長沼」駅から徒歩12分
iバス「稲城市役所」から徒歩2分



打ち合わせコーナー 〈予約制〉

男女共同参画社会をつくるための活動を目的とした団体・個人の活動の場として利用できます。



キッズルーム 〈予約制〉

活動時に乳幼児の一時保育の場として、また、乳幼児同伴の市民を含むグループ活動の場として利用できます。



印刷室 〈予約制・有料〉

印刷機、コピー機、拡大機があります。ご利用時間は、午前9時～午後5時（土・日曜日、祝日は午前10時～午後5時）です。



※打ち合わせコーナー、キッズルーム、印刷室をご利用の場合は事前登録が必要です。

情報資料コーナー

情報検索用のインターネットパソコンの利用や、書籍・行政資料などの閲覧及び貸出しができます。（貸出しは2冊を2週間まで）



いなぎ女性の悩み相談 〈予約制〉

夫婦、家族との関係、職場の悩み等さまざまな悩みについて専門の相談員がご相談をお受けします。（1回50分、面談または電話）

毎月第1・3水曜日、第4土曜日
（水曜日は男性も可）
予約専用電話：042-378-2286

相談無料

それいゆ Vol.35



令和6年3月発行

編集発行／稲城市産業文化スポーツ部

市民協働課男女平等参画係

稲城市東長沼2111 電話 042-378-2111

印刷／株式会社共同印刷所

誌名の「それいゆ」は、雑誌「青鞥」の創刊の辞として有名な「元始、女性は太陽であった」の太陽の意味です。やさしい響きのフランス語をひらがなに置き換えました。市民からの公募で命名された愛称です。本誌の発行は、男女平等推進いなぎプランに基づく事業です。